

今月の職員さん



いのうえ みく
井上 美紅 職員

最近の出来事

『両親の結婚記念日にカープの
グッズをあげました。』

◆所属部署・担当業務

畜産部 畜産販売課

◆趣味・特技

DVD（映画・ライブ）鑑賞

◆自分はこの人です！

人見知りだけど、笑うことと笑わせることが好きです。

◆上司からの一言（北出課長より）

4月に入組し、業務は主に市場申込の入力、補助事業事務、経理等の担当をしております。

8ヶ月が経過し業務のボリュームも徐々に増え、まだまだわからない事もたくさんあるかと思えます。一人で悩まず、遠慮なく何でも聞いて、1年目はしっかり業務内容を理解し2年目に繋げ、組合員さんから信頼される職員、コミュニケーションの取れる職員になってください。

これからも一緒に頑張っていきましょう！

来月の職員さんは 小塩 真司 職員です。

今月のメニュー

炊き込みおこわ



もち米に米を加えると、炊き込みおこわが失敗なく炊き上がります。

もち米・米各1合（計305g）にすると水加減も簡単。

350ccの水分を加えて炊きます。

協力：JA女性部料理研究会

主な材料（4人分）

・もち米	1合
・米	1合
・酒大さじ1+水	350cc
・鶏ささ身	2本（約100g）
・酢	小さじ1
・塩	小さじ1/3
・レンコン	150g
・梅肉	大さじ1~1.5
・枝豆（さやつき）	100g

作り方

- ①もち米と米は合わせて洗い、水気をきって表面をラップで覆って30分ほどおいておきます。
- ②ささみは筋を除き、酢と塩をからめておく。れんこんは薄いいちょう切りにし、さっと洗って水気をきっておきます。枝豆はさやからはずしておく。
- ③炊飯器に①の米と酒、水を入れて混ぜ合わせ、米を平らにならす。真ん中にささ身を置き、梅肉を重ね、れんこんをその縁に並べ入れて普通に炊飯します。
- ④炊き上がったら、ささ身をほぐして全体をさっくりと混ぜ合わせ、枝豆を加え混ぜます。

十勝 Tokachi Shimizu 清水

最高のぜいたく、育てています。



Tokachi Shimizu

2018年
年末年始合併号
309号

年頭にあたり

- 02. すこやかファミリー
佐藤さんファミリー
- 03. 2018年年頭にあたり
代表理事組合長 串田雅樹
- 04. 平成30年年頭にあたり
北海道農業協同組合 会長 飛田稔章
- 06. JAネットワーク十勝の動き
- 07. トピックス
- 14. クロスワード
- 15. ちょっと拝見します
- 16. 今月の職員さん
今月のメニュー



Agricultural Cooperative Association Magazine

自然と環境 人と人とのつながりを大切にしています。

 十勝清水町農業協同組合

すこやかファミリー



東松沢

さとう よう
佐藤 洋くん (3歳)

ニコニコ笑顔が印象的な洋くんは、お兄ちゃんとお姉ちゃんにとっても可愛がられています。3人一緒にいると、洋くんは嬉しそうな笑顔を見せてくれました。時にはケンカをすることもあるそう。

夏紀さんに子育てについて伺ったところ「家族みんなに支えられて子育てしています。この場をお借りして“いつもありがとう”と言いたいです。お父さんとお風呂に入って寝ることを習慣にしたらすごくラクです(笑)」と家族への感謝と子育てのコツを教えてくださいました。

～お母さんからのメッセージ～

おとうさん	佐藤	直克さん
おかあさん		夏紀さん
おにいちゃん		航也さん
おねえさん		香摘さん
おじいちゃん		俊則さん
おばあちゃん		日出子さん
ひいおばあちゃん		ふじのさん

たのしいこと
おいしいものに
まじぐらな 洋
そのまま大きくな、て下さい



いのですが、お年寄りにも増えつつあります。症状の特徴は、頑固なせきです。たんを伴わない乾いた

最近「マイコプラズマ肺炎」が増えているといわれます。この肺炎はこれまでの肺炎と違うのでしょうか。また、予防はどうすればよいでしょうか。肺炎は、細菌などさまざまな病原体に感染して起こりますが、その中でも近年増えているのがマイコプラズマ肺炎です。マイコプラズマとは微生物の一種で、細菌とウイルスの中間ぐらいの大きさをしています。マイコプラズマ肺炎の症状は、インフルエンザとも似ています。が、インフルエンザでは突然、高熱や関節痛などが生じるのに対し、マイコプラズマ肺炎では、2〜3日かけてだんだんと症状が強くなるという違いがあります。子どもや若い年代の人に多いのですが、お年寄りにも増えつつあります。症状の特徴は、頑固なせきです。たんを伴わない乾いた

健康 百科

『マイコプラズマ肺炎の予防』

佐久総合病院名誉院長 松島 松翠

せきが長く続きます。せきが軽い人もいますが、多くは、夜眠れないほどの激しいせきが出ます。たんは透明か、白っぽいものです。高熱が出ることもあれば、微熱の場合もあります。その他、だるさや関節痛、頭痛、喉や耳の痛みなどが現れることがあります。しばしば風邪や他の肺炎と間違われやすいのですが、細菌性の肺炎の治療に使われる通常の「抗菌薬」は効果がありません。せきがなかなか治まらない場合は、医師の診察を受けて、マイコプラズマ肺炎かどうか、きちんと診断してもらう必要があります。マイコプラズマ肺炎には、「マイクロライド系」や「ニューマイクロライド系」の抗菌薬がよく効きます。予防としては、マイコプラズマの感染を予防するためのワクチンはありませんので、インフルエンザと同じく、手洗い、うがいの徹底と、外出の際のマスク着用などが基本です。



2018年 年頭にあたり

代表理事組合長 串田 雅樹

組合員の皆様、明けましておめでとうございませう。輝かしい希望に満ちた新春をご家族とともに迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。昨年は、一昨年の連続台風被害による大きな爪あとの復旧・復興に向けた厳しい取り組みのなか、多くの皆様に農協運営、農協事業にわたり格別のご理解とご協力を賜り、あわせてご指導いただきましたことに深く感謝とお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、大きな災害もなく穏やかな一年となり、特に農耕期間の積算降水量が平年の8割程度と少なかったこと、夏期が比較的冷涼であったことなど、作物の生育に好影響がもたらされ、前年の災害による影響によりアスパラが減収になった他は、平年作から豊作の年となり、組合員の皆様のご努力が報われた年となりました。

秋まき小麦につきましては、天候不順の影響により播種作業が遅れたため、越冬前に十分な茎数が確保されませんでした。冬期間の積雪が少なく懸念された雪腐病の被害もなく、越冬後の生育は良好となりました。その後、開花期、登熟期の天

候にも恵まれたことから、単収、品質ともに平年を上回り、製穀単収は、きたなみ9.68俵、ゆめちから9.29俵、品質はともに1等Aランクとなりました。

てん菜につきましては、移植後または出芽後の強風および降霜被害もなく、6月の降雨により一部で湿害が発生したものの、総体的には順調な生育を示しました。その後7月下旬以降が低温傾向で経過したこともあり、褐斑病の発生は少なく、また、アブラムシ防除の徹底により西部萎黄病の発生も少なかったことから、単収6.4t、糖分17.2%と平年を上回る生産実績が見込まれています。

馬鈴薯につきましては、萌芽後順調な生育を示しましたが、7月下旬以降が低温で推移したため塊莖肥大が緩慢となりました。生育全般を通じて病害の発生も少なかったことから、でん原用、食用加工用ともに平年を上回る単収、ライマン価となりました。

豆類につきましては、8月上旬以降の低温及び日照不足により菌核・灰色かび病の発生が目立ちましたが、

開花期の天候に恵まれたことから大豆、小豆、金時、手亡ともに着莢状況は良好となり、収穫時の天候も良好であったため、単収、品質ともに平年を上回りました。

野菜の主要品目につきましては、アスパラは前年の災害による影響が大きく、生産量は前年の58%となりました。にんにくについては、前年の気温が低かったことが影響し、やや小玉傾向となりました。ブロッコリー、白菜については、生育全般を通し病害虫発生が少なく、生産量及び生産高は前年を上回り、特に、ブロッコリーでは、生産量438t、生産高1.4億円とともに史上最高となりました。

酪農につきましては、乳価で1キロ1.1円、補給金単価で1キロ約1.9円とプール乳価としてあわせて約3円の値上がりとなりました。また、個体価格につきましても依然堅調に高値で推移いたしました。生乳生産量につきましては、一昨年の台風被害による粗飼料の品質低下と7月上旬の猛暑の影響もあり、前半は前年を大きく下回ることとなり、また、秋には台風によるデントコーンの倒伏被害が一部ありましたが、皆様のご努力により概ね良質な粗飼料の確保をすることができ、生乳生産量も回復基調で推移しております。一昨年から厳しい環境の中で、酪農家の皆様のご努力のおかげで本町

の生乳生産量が2年連続12万トンを達成できましたことに深く感謝いたします。

農業、農協を取巻く環境は国際貿易交渉の状況が、日本農業の根幹が問われるTPP11、日EU・EPA、米国との貿易交渉など、交渉内容や進展内容など生産現場にまで十分に伝わらず、農業関係者の将来への不安や担い手の生産意欲の減退が心配されます。更に昨年10月の衆院選の与党圧勝により農協改革、規制改革の加速が今後更に懸念されます。組合員の皆様は将来展望と希望が持てる農業政策に万全の措置を講じて頂きますよう今後も関係機関とともに要望してまいります。

このような中であって、本年は、昨年からの災害の復旧・復興を引き続き組合員の皆様と連携し全力でとり進めてまいりますとともに、「土作りから始まる販売力の強化」を「しみず有機」や「とれたんと」、「十勝清水にんにく」、「十勝若牛」のJAブランドをしつかりと取り組み最高の贅沢を皆様にお届けしてまいります。

本年も天候に恵まれ、大きな災害もなく、組合員の皆様は農作業に安全で、ご家族がご健勝で豊穡の秋を迎えることができ、清水町農業が災害に負けることなく、更なる発展と成長を目指すすばらしい一年となりますようご祈念申し上げ年頭の挨拶といたします。



平成30年の年頭にあたり 北海道農業協同組合中央会 会長 飛田 稔章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい平成30年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先は晴れの日が多く、気温も高かったことから農作業・生育も順調でありました。9月中旬以降は、雨の日が多く収穫作業が遅れが発生し、特に9月18日の台風18号によって、全道的にデントコーン・水稻の倒伏、農業施設の損壊などにより、農作物の品質、収量に懸念が生じたところでした。しかしながら、結果的には、米は、作況指数が103の「やや良」、小麦・てん菜は、

収量・品質とも平年作、生乳は、全般的に安定基調と組合員の皆様の努力の成果が報われた1年となりました。

平成28年9月に4つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生し、その傷も完全に癒えない中ではありますが、昨年元旦に新聞紙上で意見広告を行った『それでも種をまく。』という農民魂のもと、JAグループ北海道は着実に前を向いて歩んで参ります。

一方、国際貿易交渉の状況は、TPP11、日EU・EPA、米国との貿易交渉など、その進展状況と合意内容、農業経営への影響など生産現場に十分伝わっていないこともあり、将来への不安を抱え、担い手の生産意欲の減退が懸念されるところです。

農協改革、規制改革では、生産資材価格の引き下げと見える化、牛乳・乳製品の生産・流通においては、新たな加工原料乳生産者補給金制度を盛り込んだ改正畜産経営安定法が成立するなど農業政策対応に追われた1年でありました。

JAグループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、JA経営の基盤を強化し、組合員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応を図って参ります。

さて、現在、JAグループ北海道は、第28回JA北海道大会のメインテーマである「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向けた決議事項に基づき、その着実な実践を図っているところであり本年はその総括年度となります。

昨年はJAグループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機

運を高め、JAグループ内外に実践状況を発信すべく、新規担い手倍増と550万人サポーターづくり・准組合員制度をテーマにJA北海道大会実践フォーラムを開催致しました。

引き続き、JAグループ北海道の英知を結集し、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJAグループ北海道を目指して参ります。関係各位の特段なるご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

結びになります。今年も干支は戌戌(つちのえいぬ)です。

一説には、戌は、「茂」に通じる意味があり、「植物の成長が絶頂期にある状態」を表しているとのことであり、今年はこの戌年にあやかり、天候に恵まれ実り多い豊穰の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶いたします。

新年明けまして

おめでとうございます

今年もどうぞよろしく

お願いいたします

(敬称略・順不同)

代表理事組合長 串田 雅樹
 専務理事 氷見 隆雄
 常務理事 秋野 勝由
 特認理事 赤間 富秋
 特認理事 光井 龍雄
 理事 鈴木 栄
 理事 松原 秀雄
 理事 金子 達也
 理事 富田 春市
 理事 高橋 雅典
 理事 山田 光一
 理事 丸山 善人
 代表監事 山本喜久男
 監事 玉井 正司
 常勤監事 宮崎 正則
 参事 岡田 繁
 職員一同

(地区営農集団)

上清水地域振興会 会長 石川 邦宏
 字清水協議会 会長 大竹 広美
 下佐幌地域推進協議会 会長 森 一広
 下人舞地域振興会 会長 金野 隆幸
 人舞地域振興会 会長 名須川誓詞
 北熊牛連合会 会長 鳥羽己紀男
 熊牛地域連合会 会長 植野 隆幸
 松沢連合会 会長 村瀬 英寿
 美萁地区連合会 会長 村上 義政
 御影地域連合会 会長 安田 薫
 羽帯地域連絡協議会 会長 山田 泰司
 上羽帯地区推進協議会 会長 中橋 一吉
 旭山地域振興協議会 会長 口田 靖明

(生産組織)

農業機械部会 会長 松尾 肇
 酪農部会 会長 村上 博昭
 農産部会 会長 喜多 悟
 (酪農・畜産)
 養豚振興会 会長 奥秋 紀克
 清水町ホルスタインクラブ 会長 高橋 喜一
 肉牛振興会 会長 佐藤 栄三
 十勝若牛生産組合 会長 吉田 哲郎
 清水町ジュニアホルスタインクラブ 会長 成松 直樹
 デイリーフォーラム95 会長 藤井 稔
 (農産・そ菜)
 下佐幌てん菜育苗センター 利用組合 組合長 千葉 道幸
 御影てん菜育苗センター利用組合 組合長 口田 靖明

美萁てん菜育苗センター利用組合

組合長 那須野裕一
 清水町種子馬鈴薯採種組合 組合長 須田 巧
 清水町豆類種子生産組合 組合長 堀川 寛
 清水町秋播小麦採種組合 組合長 森 一広
 清水町馬鈴薯生産組合 組合長 那須野裕一
 清水町蔬菜振興会 会長 吉野 進
 十勝タリーン大豆生産組合 組合長 佐藤 博志
 (一般)
 清水町農民連盟 委員長 馬場 一彦
 清水町農村連盟 委員長 桜井 清
 ホクレン原料所 所長 桑原 尚俊
 JA十勝清水町青年部 部長 遠藤 耕作
 JA十勝清水町女性部 部長 中村 昌子
 ほか役員一同

JAネットワーク十勝の動き

JAネットワーク十勝

組合員の皆様に、ネットワーク事業の推進状況をご報告申し上げます。

1. 生産・販売の強化について

- 「十勝農業ビジョン 2021～世界に誇る十勝農業～」を策定し、十勝農業のブランド化・高付加価値化・ファンづくりの推進と安全安心で高品質な農畜産物の安定供給に努め、経営管理の高度化と生産性の向上により農業所得の向上を図るとともに、協同の理念を共有し組織間連携を一層強化し、豊かで潤いのある地域社会の発展を目指すことを基本姿勢とし、5年後の農業生産額の目標を 3,500 億円としました。
- 平成26年度から取り組んでいる、「Made in 十勝」ブランド推進事業について、十勝JA産農畜産物・加工品を一般消費者にPRするため、「とかちマルシェ」、「美味とかち大収穫祭」、「ホクレン大収穫祭」、「北海道アグリ・フードプロジェクト」に「十勝ごちそう共和国」として出展しました。また、十勝の来訪者にPRするため、十勝川温泉において「Made in 十勝フェア」を開催中です。
- 「十勝型GAP」事業は、「平成42年までに、ほぼ全ての国内の産地で国際水準のGAPを実施する」とした国の方針に従って展開するため、国際水準GAP認証取得に向けたステップアップの手段として、十勝管内24JAで統一的に取り組むこととし、組合長会と連携し新たな仕組みの整備を進めています。

2. JA経営の強化について

- 平成 28 年度のJA財務状況については、すべてのJAが主要なネットワーク基準を満たしています。
- 平成 22 年度に策定しました「管内JA全体の経営戦略」に基づき、優秀な職員の確保・育成のために、ホームページによる管内JA職員採用情報の提供と道内大学に対する就職説明会の実施、担当職員の登録と研修の充実、農業経営診断士・営農指導員・農業融資プランナーなどの資格取得の推進に取り組んでいます。

農業者年金説明会

11月27日13時より、農業者年金制度について、より一層の理解を深め、日頃の疑問を解消していたくことを目的とした「農業者年金説明会」が本所2階大会議室にて開催されました。説明会には、年金受給を控えている方々を中心に14名が参加されました。

講師には北海道農業会議の幡野氏をお招きし、旧制度の経営移譲年金（加算付年金）を受給するための注意点を中心に、新制度の内容、加入方法や制度の仕組みについて詳しく説明が行われました。説明会の最後には質疑応答が行われ、多くの質問が出ており有意義な説明会となりました。

現在の農業者年金は、経営主の方だけではなく、配偶者や後継者、その配偶者の方など、国民年金の第1号被保険者で年間60日以上農業に従事する60歳未満の方はどなたでも加入できます。加入を検討されている方は、JA経営指導課まで是非ご相談ください。



真剣に説明会を聞いています

大感謝祭

11月9日と10日の2日間、JA十勝清水町資材店舗前及び倉庫にて、「JA十勝清水町大感謝祭」を開催いたしました。

冬物商品、各種農作業部品、酪農資材、農機具に車・タイヤやコンロ・ストーブなどが展示及び販売されました。

その他にも食彩館では食料品・生鮮品・果実などを、農産課では黒にんにく・十勝若牛の肉まん・十勝清水はるきらりラーメンなどの販売が行なわれ、大盛況の内に終了しました。



会場内の様子です

地域別懇談会

12月5日～12月7日の3日間、JA地域別懇談会を10ヶ所の会場で開催いたしました。

議題としては、役員選任、29年産小麦関係の精算、酪農畜産情勢について、災害復旧の状況など9項目について説明致しました。

JAからの説明後、組合員からの意見を求め、これらに対して具体的な内容の説明を行い理解を深めていただきました。



議案に目を通す組合員

308号のお詫びと訂正

308号に掲載しました「てん菜初荷式と目慣らし研修会行われる」の記事にて、「ホクレン清水製糖工場（筒井 修工場長）」と記載いたしました。正しくは「ホクレン清水製糖工場（前本 政道工場長）」です。また、製糖工場操業は1月下旬となっておりますが、正しくは「2月末までの操業」です。心よりお詫び申し上げますと共に訂正いたします。

J A 女性部

清水高校で食品実習

『十勝若牛』カレー・
カルツォーネ&ベーコン
・スイーツ作りに挑戦

平成24年度から、北海道清水高等学校の協力により始まった食品実習は、当JA女性部員が地元の高校生と交流しながら、食品加工について学ぶことを目的に行われています。

今年度は全部で3回の実習が行われましたので、各回の様子をご紹介します。

11月28日：スパイスから作る

『十勝若牛』カレー

(女性部員7名参加)

最初はスパイスの勉強から始めました。カレーの基本となるスパイスや仕上げに使うと香りが引き立つスパイスなど様々なスパイスを組み合わせて自分好みに料理を作ることが出来ます。「名前が聞いたことあるね!」「カレーの匂いがするね!」などの声が聞こえました。

スパイスについて勉強した後、



美味しいカレーに笑顔が溢れます

2班に分かれてインドカレーのベース作りです。レシピを見ながら材料を計量し、調理に取り掛かります。使い慣れないスパイスも生徒さんに教えてもらいながら調理を進めます。工程が進むにつれ調理室にカレーの良い匂いが広がります。日本のカレーとは違い煮込む時間が短いため、タマネギを炒め終わるとあっという間にインドカレーの完成です。

試食してみると、参加者からは美味しいという歓声があがりました。高校生が作ったクミンを使用した料理「カチュンバル」も頂



生徒の方が丁寧に教えてくれます

き1回目の試食が終わり、空腹が満たされた後は、グリーンカレー作りです。グリーンカレーは青唐辛子を使う辛いカレーです。作り方は材料を混ぜて加熱するだけ、という簡単なもの。しかし、スパイスをすり鉢で粉末にする作業が思いのほか大変。頼もしい生徒さんにバトンタッチしこの作業を無事終えることができました。

「私、辛い料理大好き」と言っていた参加者さんも「美味しいけどこのカレーは辛い!」と叫びてしまうほどの辛さ。生徒さんが作ったナンとの相性も抜群で、「家に帰ったら作ってみよう」と

いう声が聞こえました。お土産に十勝若牛をふんだんに使ったインドカレーを受け取り、食品実習を終えました。

11月30日：カルツォーネ&ベーコン作り(女性部員5名参加)

はじめに、カルツォーネの生地作りから行いました。カルツォーネとは、ピザの一種で、具材を生地に載せるのではなく、包み込んで、焼いたり揚げたりするものです。「生地は、背伸びして体重をかけるようにこねると良いですよ」とのアドバイスのもと参加者は、一生懸命こねていました。

その後、生地の一次発酵中に、ベーコン作りへ。ピクル液を作るのに使用する調味料や香辛料・添加物などを量る班と豚バラ肉をカットする班に分かれて作業しました。大きな豚バラ肉や0.01g単位で計量できるはかりに驚きつつも生徒さんの指示のもと、皆さん着々と作業を進めます。

昨年までは乾塩法という方法でベーコン作りを行っていましたが、今年は衛生法の関係で湿塩法(ピクル液に漬け込む)という方法で行いました。ピクル液の

煮沸を生徒さんにまかせ、カルツォーネの生地の分割作業へうつります。

その後、二次発酵を待っている間は、生徒さんが淹れてくれたコーヒードレイクタイム。会員同士で会話を楽しんだ後、いよいよカルツォーネの成型です。

楕円形に伸ばした生地の上に、トマトソース↓ソーセージ↓枝豆↓チーズの順に載せ、生地の端にソースがつかないように両側から持ち上げて包みます。「油で揚げるときに爆発してしまうので、できるだけ空気を抜くように包んでください」と生徒さんから説明があり、皆さん真剣な表情で作業をしていました。「意外と難しい！」大きな餃子みたい！と話しながら成型を終えました。

成型後、生徒さんが揚げてくれたカルツォーネを皆で試食。「サクサクして美味しい！」とできあがりに満足している様子でした。

次に、豚バラ肉が入ったビニール袋に完成したピクルス液を入れ、できるだけ空気を抜き、口を閉じます。その後、冷蔵庫で1週間ねかせ：乾燥↓燻煙↓湯煮↓冷却↓カット&包装を経て出来るのですが、その作業は生徒さんにま

かせました。

最後に、生徒さんが作ったベーコンを試食したのですが、「とても美味しい！」との声や「一週間後が楽しみ！」との声が多く聞こえ、カルツォーネ&ベーコン作りは大成功だったようです。

12月1日：スイーツ作り

(女性部員9名参加)

生徒さんの指示のもと、当J Aの小豆粉を使ったシフォンケーキ作りから行いました。初めに卵を卵黄3つと卵白4つになるように



あわ立て具合が重要です



完成したお菓子と一緒に一枚

ボウルに分けます。その後、卵黄の入ったボウルにグラニュー糖を入れ、1分待つてから、サラダ油、牛乳、薄力粉、小豆粉の順番で加えていき、泡だて器でグルテンができるように混ぜ、卵黄生地を作ります。

卵黄生地ができたなら、メレンゲ作りです。卵白をハンドミキサーの低速で白っぽくなるまで混ぜたら、グラニュー糖を3分の1加え、高速で混ぜます。この作業を3回繰り返し、最後に低速できめを整えたらメレンゲの完成です。「このくらい？」、「もう少し泡立てた方が良い？」と生徒さんに確認しながらハンドミキサーを止めたり、

動かしたりする様子が印象的でした。

次に、卵黄生地にメレンゲを3分の1加えてなじませます。「このメレンゲは生贄と言います。泡はつぶれても良いので、手早くしっかりと混ぜて下さい。残りのメレンゲは、泡をつぶさないように大きく返し、少ない回数で均一な生地にします。」と先生が実演をしながら説明してくれました。

その後、シフォンケーキを焼いている間に3班に分かれて『和菓子』『シュークリーム』『ゼラチンなしのふわふわムース』を作りました。作業中は、みなさん真剣な様子で生徒さんの説明を聞きながら必死にメモを取る姿や「家で作る時はどうしたら良いの?」「リキュールは何か別のものにしても大丈夫?」と積極的に質問をする姿がみられました。

最後に、焼きあがった『小豆のシフォンケーキ』と『和菓子』・『シュークリーム』・『ゼラチンなしのふわふわムース』を参加者で分け合い、「家でも今日みたいにできるかな?」「小豆の粉を使って、家でも作ってみようかな?」と話しつつ、食品実習を終えました。

女性部 加工サークル

五目の具作り体験会を開催

12月6日、JA女性部加工サークル（玉井美和会長）が女性部員を対象とした『五目の具作り体験会』を開催し、9名（サークル会員7名・体験者2名）が参加しました。

加工サークルの五目の具作りは毎年1回、農閑期に行っており、味は会員から会員へ代々受け継がれるほど好評です。また五目の具は冷凍することが可能なため、保存食としても人気があります。



机いっぱいには大量の食材が並びます



参加された加工サークルの会員

当日は、朝9時から調理を開始。大量の食材や調味料を調理しやすい分量に分け、テキパキと作業が進みます。作業中は、久しぶりに顔を合わせた部員同士で話に花が咲き、和気あいあいとした雰囲気でした。体験会に初めて参加した部員は「いつもいたただいてばかりだったので初めて参加したけど、材料がすごい多いね」と驚かされていました。

昼食をはさみ1日かけて作ったたくさん五目の具を大きな漬け物樽などに分け合い、終始楽しそうな雰囲気の中、体験会を終えました。

西部ブロック交流会

清水・めむろフレミズ 会員同士で親睦を深める

12月11日、JA十勝清水町女性部フレッシュミズ部会（佐々木香織会長）・JAめむろ女性部フレッシュミズ部会（杉山千鶴代表リーダー）は、清水町体育館で西部ブロック交流会を開催し、同会員40名（清水からは10名）が参加しました。

昨年からは新得がお休みされたことにより、この交流会は清水・めむろの2単組で開催しています。



初めてのゲームに力を合わせて挑戦



表彰式と挨拶

始めに、当部会 佐々木会長より「清水とめむろ、普段は話す機会のない会員同士で交流を深められたらと思います。怪我に気を付けて交流を楽しみましょう」と挨拶がありました。早速チームに分かれ、清水町体育協会の中島さんの協力のもと、入念な準備運動から始まり、ルール説明に移ります。今回行った競技は「チャレンジ・ザ・ゲーム」というニュースポーツ。運動能力ではなく、チームで力を合わせることに重点を置いたレクリエーションです。実際に道具を使いながら、どのように競技を進めるか説明を受け、練習をしてから、本番スタートです。

慣れない道具やルールに戸惑いながらも、チームで声を掛け合い、記録に挑戦していきます。次第に、チームの仲間同士で連携が取れるようになり、初めて会ったとは思えないくらい息の合ったプレーと応援に会場は盛り上がりました。

たくさん汗をかいた後は、鳥せいに会場を移し、懇親会です。表彰式を行い、「とても楽しかった」「来年また会えるのが楽しみです」という感想をいただきました。美味しい料理と新しい仲間との出会いを楽しみました。

西部ブロック交流会は、会員にとって有意義な時間になったようです。

フレッシュユミズ部会

冬期研修会（勉強会）とクリスマス会で親睦を深める

JA女性部フレッシュユミズ部会（佐々木香織会長）は12月15日に冬期研修会（参加者15名）とクリスマス会（参加者26名）を開きました。

始めに、延与副会長から「フレッシュで勉強会を開くというのは、

私を知る限り初めてのことで、後半にはグループワークも行いますので普段お話しする機会のない方や、この機会に聞いてみたいことなどたくさんお話しして交流を深められたらと思います。」と挨拶がありました。

午前中は農協本所の大会議室で勉強会を開きました。前半は「十勝清水町の農業と農協について知ろう！」というテーマで講義を受けました。協同組合に関する内容から十勝清水町農協の理念など、盛りだくさんの内容に「久々にしっかり勉強した」との声も聞かれました。頷いたり、メモを取ったりする姿や、しみず有機や堆肥



グループワークの様子



集合写真

化施設について積極的に質問する姿が見られました。

後半のグループワークでは、子育てや家事のことだけではなく、農作業について意見交換を行いました。なかなか聞く機会のない仕事の話や地域の話など有意義な時間になったようです。

お昼からは年に一度のお楽しみ、クリスマス会です。美味しい料理を囲みながら、会員同士で話に花が咲きます。

クリスマス会の中盤には、豪華景品が当たる抽選会を行いました。自分の番号が読み上げられると嬉しさの余り「やったー！」と声があがります。便利なキッチン家電や癒しグッズ、ギフト券など、

様々な豪華景品が取り揃えられました。ダブルチャンスが当たるとじゃんけん大会も大いに盛り上がり、参加者の笑顔で会場が溢れました。

大盛り上がりの中、冬期研修会とクリスマス会を終えました。



クリスマス会を楽しみます



サンタの格好をしての抽選会

むらさき会
第2回研修会

J A十勝清水町女性部むらさき会（口田邦子会長）は11月22日に第2回研修会を開き、会員19名が参加しました。

午前はむらさき会では、会員に大人気のオアシスを使った『お花』の研修です。定番となったこの研修には、毎年、講師として平野真実さんを招き、優しく、丁寧に教えていただきます。

お花を生けている最中は和気あいあいとしながらも、その顔は真剣です。ピンクや黄色など、色や形が様々な花を生けながら、「この花、見たことない。何ていう花だろう?」「可愛いね」「花器と花の感じが合って上手にできた」と会話も弾みます。

出来上がった生け花を並べ、全員で記念撮影をし、午前の研修を終えました。たくさんの花に囲まれ、会員の表情も華やき、とても良い1枚となりました。

午後の研修は、顕明寺住職の乙井情雲さんを迎え、法話を聞きました。水戸黄門のテーマの替え歌を歌い始まった研修。話しながら乙井さんは、「面白いことは笑っ



生け花と一緒に集合写真

て、悲しいと思えば泣いて良いですよ」と仰います。

仏教の教えを、わかりやすく面白く、時には絵を描きながら楽しくお話をしてください、終始笑い声の絶えない研修となりました。

1時間ほどの法話を聞いた後は、2月に行われる女性部まつりのアトラクションの練習をしました。今回が初めての練習で、まずは役員がお手本を見せ、会員が合わ

せて踊ります。「右から?左から?」「この時はこれで合ってるの?」と質問が飛び交い、徐々に振り付けを覚えていきます。見学していた人も、座りながら手の動きを真似して踊ったりと、全員参加で練習することが出来ました。練習はまだ始まったばかりですが、アトラクション出場に向けてがんばっています!

朝から色々な内容で行った研修は長時間にわたりましたが、会員同士楽しく、充実した時間となつたようです。

そよかぜの会
視察研修

11月14日、J Aそよかぜの会（松澤くに子会長）は視察研修会を行いました。

例年7月に実施していたのですが、今年は11月開催とし、会員11名、一般参加者1名が参加して、帯広市にある「グループホームふれあいみなみ野」を視察しました。

施設で働く方に共同スペースやお風呂場、利用者さんが実際に使っているお部屋などを見せてもらったり、卓球やカラオケをして楽しむ利用者さんの姿を見て、認

知症などの予防や改善には環境や周りの理解が大切だと改めて感じることが出来ました。

施設の見学後は、「提携の病院はどこですか?」「何名まで入居することが出来るのですか?」と思いたい質問に丁寧に答えて頂き、予定していた1時間ほどの訪問は、あっという間に終了しました。

今回伺った施設は、入居者が少人数で、とてもアットホームな雰囲気でした。施設を運営するアルムグループは、ビジネスホテルやカフェのほか、グループホームやシニアマンションなどの高齢者福祉事業も手掛け、十勝を中心に道内に展開しています。

視察終了後は、もみじ乃で昼食をとり、終了となりました。



施設の説明を受けています

そよかぜの会
ふまねっと体験講座

J A 十勝清水町そよかぜの会（松澤くに子会長）は12月4日に「ふまねっと体験講座」を開き、会員ほか8名が参加しました。

「ふまねっと」は、正方形のマスの中を枠を踏まないようにゆつくりと歩く運動で、足腰の筋力向上に加え、全身のバランスや認知機能を向上させることを重視した「運動学習」プログラムです。

講師は、ふまねっとサポーターズ清水 鷹野治保さんにお越し頂きました。鷹野さんから「頭で考えながらやるのが大事です。



ふまねっとの体験中です



最後に深呼吸をして終了です

ゆつくりでいいですよ。」と教えてもらい、まずは1歩ずつからスタートです。

一人ずつマスの中を歩きますが、足だけの動作に手拍子を付けたり、歩数が増えていったりと、徐々に複雑になる動作に「できるかなあ」「次、どっちの足だっけ？」とサポーターや周りの参加者と一緒に楽しく講座が進みます。3歩や4歩のステップまでいくと、「ぞうさん」や「ぶんぶんぶん」の童謡を歌いながら足踏みしたり、斜めに進む動作が加わったりと難しいステップをこなしました。ガッツポーズをしたり、「よし！できた」と皆さん充実の様子で講座は終了しました。

青年部組織部会

消化液についての研修会開催

12月14日、J A 青年部組織部会（若原 竜哉部会長）は、メタン発酵消化液についての研修会を開催しました。

講師として、J A 経営指導課より富樫次長、島田職員に協力のもと、部員18名が参加しました。

研修会は全14問の一问一答方式で行われ、参加部員の殆どが悩みながらも回答を行いました。またその他にも、化学肥料・しみず有機との比較や、有効な施肥設計など実践的な内容もあり、部員からは多くの質問が出るなど、非常に有意義な研修会となりました。



研修を受ける部会員

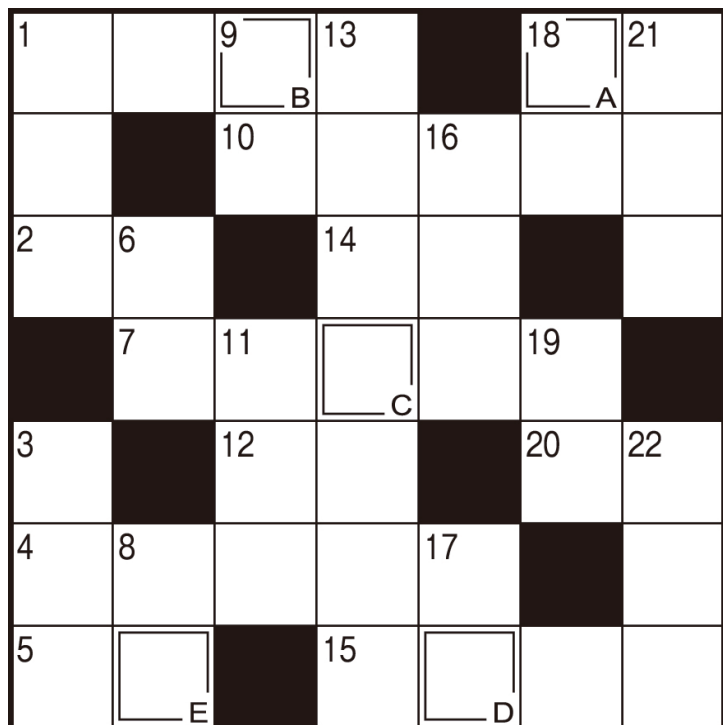
秋野菜即売会

11月3日の早朝より、秋野菜即売会をJ A 十勝清水町本所の駐車場で開催いたしました。白菜やキャベツ・ごぼう・札幌大球・土付大根・南瓜・にんにく・じゃがいも・黒にんにくなどの販売が行なわれました。特にキャベツと白菜に行列ができ、快晴のもと大盛況のうちに終了しました。



皆さん笑顔で買っていかれました

クロスワードパズル



クイズの答えを解答用紙に記入し、ファックスするか直接JAにご持参ください。正解者の中から抽選で5名の方に記念品を差し上げます。ご応募お待ちしております。(締切1月31日)

11月号 (No. 308) の答え
A B C D E F
コハルビヨリ



→ ヨコのカギ

- ①セリ・ナスナ・ゴギョウ・ハコベラ……といえは
- ②平成30年は戊戌(つちのえいぬ)です
- ④通いのこと。メイン——
- ⑤白黒写真からは伝わらないもの
- ⑦レースンと呼ばれることも
- ⑩米と水を入れてセットします
- ⑫男性の方がよく使う一人称
- ⑭ベトナムの通貨単位
- ⑮襟が緩んだり帯がほどけたい
- ⑰竹の幹にできる区切り
- ⑳彼女は満面の——を浮かべた

↓ タテのカギ

- ①画数を意識して付ける人もいます
- ③歯を抜くときにかけます
- ⑥乗り物を使わない移動手段
- ⑧マグロの身のうち脂の多い部分
- ⑨木偏に南と書くと
- ⑪読みかけの本に挟む物
- ⑬運転席の横におきます。自動車を止めておくときに引きます
- ⑮手荒れ防止に——クリームを塗った
- ⑰損の反対語
- ⑱秒と時の間
- ⑲「領収書の宛名は?」「——様でございます」
- ㉑芸能人のサイン——が飾られた店
- ㉒雨交じりの雪のこと

11月号 (No. 308) あたまの体操当選者発表

当選者は	下佐幌3	白石 淑子さん	本村 松澤 龍式さん
	御影更生	青木 日和さん	平和 那須野 梨紗さん
	本旭山	中村 斗維さん	

おめでとうございます。



ちょっと
拝見します



十勝フレミズ交流会で十勝管内のフレミズ会員と交流

11月29日、JA十勝地区女性協議会フレッシュミズ交流集会在開催され、当JAフレッシュミズ部会（佐々木香織会長）から14名が参加しました。この交流集会上に、十勝管内のフレミズ・若妻会から約160名の会員が集まりました。今年度は当部会から役員を選出していることもあり、昨年より多くの会員が参加しました。

当日は仮装での参加が推奨されていたため、参加者は様々な衣装を身につけていました。ウオーリーやウサギなどの仮装が見られる中、当部会はミニオンの衣装で揃って参加しました。

開会式でJA十勝地区の女性部長やフレミズ会長から挨拶を頂き、準備運動をしてから競技に移ります。

第一種目はパン食い競争。数種類の満寿屋パンを使用しました。各チーム1人ずつ順番に走り得点を稼ぎます。上手くパンを取れず、こっそり手で掴む姿も。当会員も大活躍していました。

第二種目は障害物競走。リレー方式でラケットレース、風船リレー、デカパンレース、借り人競争でタスキをつなぎます。役員によるルール説明を受け、各チームで作戦会議を行い、それぞれの待機場所へ。すっかり他地域のフレミズ会員と打ち解け、笑いあう姿があちこちで見られました。他地域のフレミズ会員と協力しながら競ったレースを展開します。上位入賞したチームには豪華賞品が贈呈されるため、どの会員も熱い声援を送ります。大盛り上がりなのか全ての競技が終了しました。

そして、得点と順位が発表される表彰式が始まります。当会員が振り分けられた2チームは1位と3位に入賞し、素敵な景品をゲットしました。

他の市町村のフレミズ会員と出会える数少ない機会をいっぱい楽しみ、交流集会を終えました。